

遠野人

遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報をお届けしています。今月は同センター研究員の小田さんによる、遠野の情報発信についてのお話です。

★筆者 おた とみひで 小田 富英

遠野文化研究センター研究員。武蔵野市立小学校教員時代、「ふるさと学校体験留学」や「児童交流」の引率に携わる。現在刊行中の『柳田國男全集』編集委員として昨年「柳田國男年譜」を発表



アメリカウッドランズ高校の学生たち

今から4年前の7月初め、アメリカヒューストン郊外のウッドランズ高校の19人の高校生と2人の卒業生、そして引率の先生が遠野を訪れました。目的は、授業で日本語を学び、電子書籍の『口語訳 遠野物語』（河出文庫）から自分で選んだ話のストーリーテリングを遠野の人たちの前でやってみようということでした。私は、佐藤誠輔先生が訳した本書に「注」を書かせていただいたこともあって、この企画を何としても実現させたいと思いました。その結果、小学生の時に「ふるさと学校体験留学」や児童交流（これらの引率も私でした）で遠野に来たことのある武蔵野の学生、法政大学の英語サークルの学生さんたちの協力を得て、遠野みらい創りカレッジを拠点に充実した三日間を過ごすことができました。目的のストーリーテリング大会は、二日目の夜、遠野昔話語り部の会の方たちを中心とした多くの遠野市民の方たちの前で、緊張しながらも和やかに終えることができました。一日目のクイズ交流会に来てくれた市内の中学生、三日目におじゃました土淵小学校のみなさんにも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

初の来日で、それも京都、広島と回るハードスケジュールにもめげず、大きなトラブルもなく過ごし、笑顔一杯で遠野を去っていったアメリカの高校生たちを見て、私は、日本人も負けてはいられないと思ったものです。

そこで私は、『遠野物語』を読み、課題をもって遠野を訪れ、遠野の方たちと交流することを目的とした試みが、これからの地域間交流の本筋になるべきと考え、

『遠野物語』で交流を楽しむ会（略『遠野物語』交流楽会）」を立ち上げ、昨年二日続きのイベントを川崎と武蔵野で行いました。遠野から語り部の会の堀切初さんに来て頂き、一日目は遠野出身のシンガーソングライターの船越由佳さんと、二日目は女性落語家の三遊亭遊七さんとのコラボのなかに、両日とも私の話を挟み込ませていただきました。堀切さんと船越さんのコラボは、昨秋、遠野でも社会福祉協議会のイベントとして広がりまし、男性語り部と女性落語家の新鮮な組み合わせも今後の可能性を感じさせてくれました。今年の春には、この組み合わせに二本の映像を加えて、一日がかりの「第3回『遠野物語』交流まつり」を開催するつもりでしたが、コロナ禍の影響で延期せざるを得なくなりました。今後、こうした会をさらに積み上げていき、『遠野物語』を読んだ「課題」を抱えて遠野を訪れる人たちを増やし、遠野の市民の方々との交流会を、あの時のアメリカの高校生のように実現したいと、今だからこそ一層強く夢見るこの頃です。



交流まつりの様子。左から三遊亭さん、堀切さん

★今月のプレゼント

このコーナーへご意見・ご感想をお寄せいただいた人の中から抽選で3名様へ、令和元年遠野文化フォーラム報告書『子守唄と民謡』をプレゼントします。①お名前②ご住所③電話番号④感想一を添え、郵送、ファクス、メールのいずれかで下記まで送付ください。

*締切7月31日(金)

